



第16号

令和2年7月1日
高山赤十字病院

病院長よりこんにちは！

拝啓 夏空がまぶしく感じられることとなりましたが、皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。開業医の先生方はじめ関係機関のみなさまには、患者さんのご紹介など相互連携にご理解ご協力をいただき誠にありがとうございます。

飛騨周辺では、夏の風物詩 ホタルの飛翔がみられ、昔に比べホタルを見かけることは随分と少なくなりましたが、舗装されていない土手を覗くと夕暮れどき数匹が淡い光を放ち、美しい原風景に出会います。一旦中止が決まった春の選抜高校野球も交流戦の開催が決まり、涙を流して喜ぶ球児の姿に胸を熱くしました。一瞬の輝きを放つホタルと重なるようです。

これからが暑さも本番、関係者の皆さまにおかれましては、夏バテなどなされませんように、お身体にお気をつけください。

敬具
病院長 清島 満

【同封文書】

○病院長あいさつ「病院長よりこんにちは！」

新型コロナウイルス感染症に係るお知らせ	・・・P2
循環器内科に係る診療体制についてお知らせ	・・・P3
退任&新任 医師のご紹介	・・・P4
先生ってこんな人 内科 西野 彰 医師	・・・P5

○外来担当医表 7月分

○高山赤十字病院診療案内

…患者さんによるご予約の場合に当院への紹介状と共にお渡しいただくと便利です

○地域連携係よりお知らせ

『地域連携のご案内』の文書差し替えについて

- ・診療科外来担当医師一覧（初診）
- ・新型コロナウイルス感染症にかかる問診票の持参について
- ・新型コロナウイルス感染症 問診票



【新型コロナウイルス感染症に係るお知らせ】

国の緊急事態宣言は全面的に解除され、他県からの往来も可能となりましたが、第2波、第3波の可能性を鑑み、また当院の診療機能を低下させることなく医療体制を確保する必要があることから、

正面玄関での「簡易問診」(入館チェック)

および

入院患者さんへの「面会禁止」を継続しております

■■■面会禁止に伴うクローク（荷物受け渡し）窓口■■■

《場所：救急外来窓口》

今後の流行状況によって感染防止対策や面会制限の見直しを行います。
ひきつづき、ご理解とご協力をお願い申し上げます。





【循環器内科に係る診療体制についてお知らせ】

4月より循環器内科において常勤医：桑原弘幸医師が着任し、診療体制の再構築に努めております。この度、診療体制の一部を整備し、夜間及び休日における受け入れを開始いたします。

記

1. 受入可能疾患： ペースメーカー対応になりそうな徐脈性不整脈
(例：失神、めまい、心不全症状がみられる患者)
2. 受入開始日： 令和2年7月1日(水)
3. 受入可能時間： 24時間/365日

※常勤医1名体制のため、紹介及び搬送時は病院にご一報をお願いいたします。

■■問い合わせ■■

地域連携係

TEL：0577-35-1880

FAX：0577-32-1165

[平日]8：30～19：00

[土曜]8：30～13：00





◆◆退任&新任 医師のご紹介◆◆

【退任】

診療科	氏名	卒年	資格
外科	足立 尊仁	H3	外科学会専門医・指導医 肝胆膵外科学会肝胆膵外科高度技能指導医 消化器外科学会専門医・指導医がん治療認定医 麻酔科標榜医
外科	洞口 岳	H26	
内科（内分泌）	藤澤 太郎	H24	内科学会認定内科医・総合内科専門医
専攻医 内科（呼吸器）	葛西 佑太郎	H28	
専攻医 内科（血液）	武田 健一郎	H29	

【新任】

診療科	氏名	卒年	資格
救急科	まえだ としき 前田 敏樹	H8	救急学会専門医・外科学会専門医 麻酔科標榜医・臨床研修指導医 JPTEC インストラクター
外科	さくらたに たくじ 櫻谷 卓司	H19	外科学会専門医 がん治療認定医
専攻医 内科（呼吸器）	むとう ゆうや 武藤 優耶	H28	
専攻医 内科（血液）	いしぎわ こうへい 石際 康平	H29	



◇◇『先生ってこんな人』シリーズ⑧◇◇

開業医の先生と「顔の見える関係」を築き、安心して患者さんをご紹介いただけるよう
スタートした『先生ってこんな人』シリーズ。

第8回目は、膠原病専門医 内科の西野彰先生です。

ご経歴を教えてください

岐阜市で生まれ、2歳ごろ高山に引っ越し
高校卒業まで高山で育ちました。

岐阜大学に進み、研修医3年目は静岡県、
その後は東京女子医大と関東の関連病院に勤
め今年、故郷の高山へ帰ってきました。

内科

(膠原病・リウマチ学会専門医)

にしんの あきら
西野 彰 医師

医師を目指したきっかけは何ですか？

高校生活後半になっても、まさか医学部を受験するとは思ってもおらず、ぼんやりと薬
剤師になることを思い描いていました。

ところが、授業の一環で、様々な職業の方が来校し話を伺う機会があり、その際のドク
ターの話に惹きつけられ一気に興味が沸き、そのまま医学部を受験していました。



先生のご専門は「膠原病」ですが、専門を選ぶに至ったきっかけは？

学生時代は内科系と決め、研修医 2 年間は静岡県内の病院で過ごしました。元々、専門医制度のはじまる前から研修制度が充実していることは魅力でしたが、病院見学に伺った際、県外の大学生でもウェルカムな雰囲気が印象に残り、そのことが大きく背中を押してくれました。

病院に膠原病の専門医はいらっしゃらなかったのですが、偶然参加した膠原病のセミナー内容がおもしろく、3 年目から東京女子医大でお世話になりました。

膠原病は国試でも数問しか出題されないマイナーな分野ですが、解明されていないことも多く奥深い分野で、周りに素晴らしい先生が沢山いらっしゃったことも恵まれた環境であったと思います。

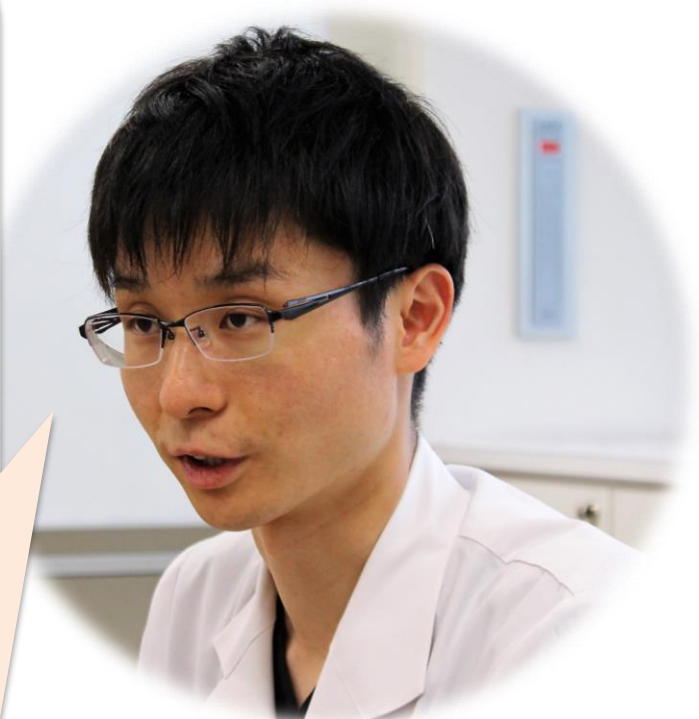
膠原病は若い女性に発症するイメージがあります。

そうですね。大学病院での患者会もまるで女子会のような雰囲気でした(笑)

ただ、一生のつきあいとなる病気ですので年代は幅広くいらっしゃいます。

当地の症例は東京に比べて少ないですが、これまで包括的に内分泌内科の柴田部長が診てくださっていた膠原病の患者さんを引き継いでいます。また、膠原病を専門とする開業医の先生もいらっしゃり、当地に暮らし富山へ送っていた患者さんでこちらにご紹介いただいた方もいらっしゃいます。

開業医の先生方には、関節痛が治らないなど些細な症状で結構ですので、お気軽にご相談いただき、勉強させていただきたいと思えます。



診察で心がけていることはありますか？

患者さんの話を否定せず聞くことを心がけています。

患者さんとは長い付き合いになる場合が多く、結婚や出産など治療とのバランスを考慮する機会が訪れますので、医師の言うことが絶対ではなく、相談しながら診察を行っています。

信頼関係が何より大切になりますね。

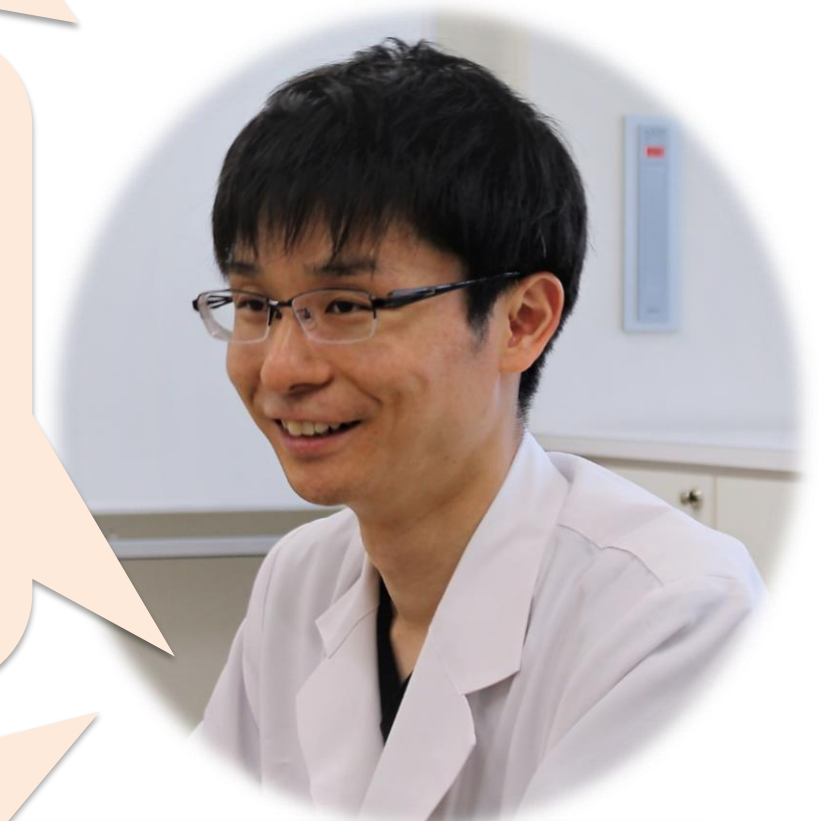


高校卒業以来の高山での生活はいかがですか？

夜 7 時には町は静かになり、カエルの声や虫の鳴き声が聞こえてきます。
東京ではエアコン生活でしたが、高山ではエアコンよりも窓を開放したくなるような気分になりますね。
澄んだ空気のなかに生活していることを実感しホッとします。

休日はどのように 過ごしていっていますか？

東京に居るころはよく旅行に出かけていましたが、飛騨では川や山へ出かけたいですね。
といっても子供たちがまだ小さいですので、週末はよくおじいちゃんおばあちゃんのところへ出かけ、可愛がってもらっています。



開業医の先生へメッセージをお願いします。

膠原病の多くはいまだ完治するということは難しく、病状が落ち着いた後も定期的に外来に通院していただく必要があります。様々な臓器に問題をかかえていらっしゃる、高血圧や糖尿病などの慢性疾患をお持ちの方も多いため、かかりつけ医の先生方にご協力いただきながら患者さんに寄り添う診療を努めて参りたいと思います。紹介・逆紹介の際は、何卒宜しくお願い致します。

また、当院にはリウマチを専門とする整形外科医の岩田崇裕先生もいらっしゃる、患者さんと十分に相談しながら治療目標の設定や内容の選択を行い、より良い社会生活を送れるよう長い目で見守っていきたいと思います。